

■シリーズ 沼津兵学校とその人材 112

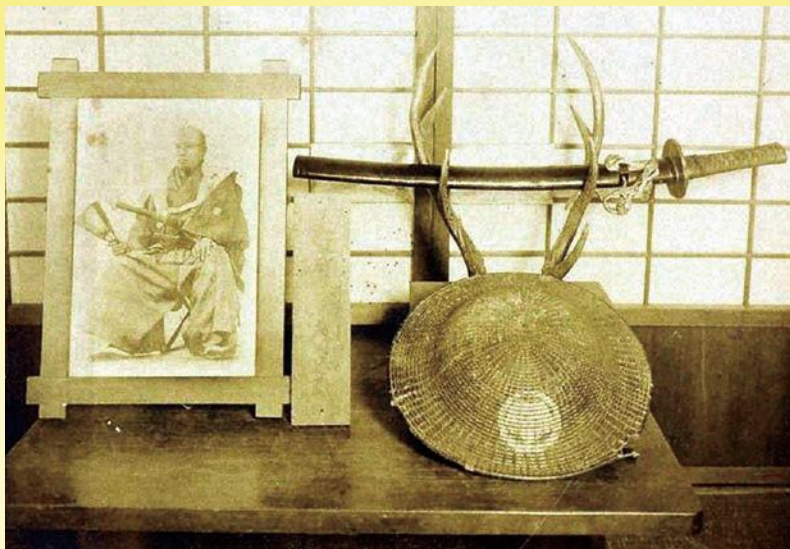
彰義隊と沼津兵学校の人びと

■江原素六とその周辺 72

江原素六と戊辰戦没者慰霊

■夏休みイベント報告

■博物館学芸員実習と館外展示報告



彰義隊の敗残兵と間違われ殺害された  
藤田忠蔵の遺影と遺品

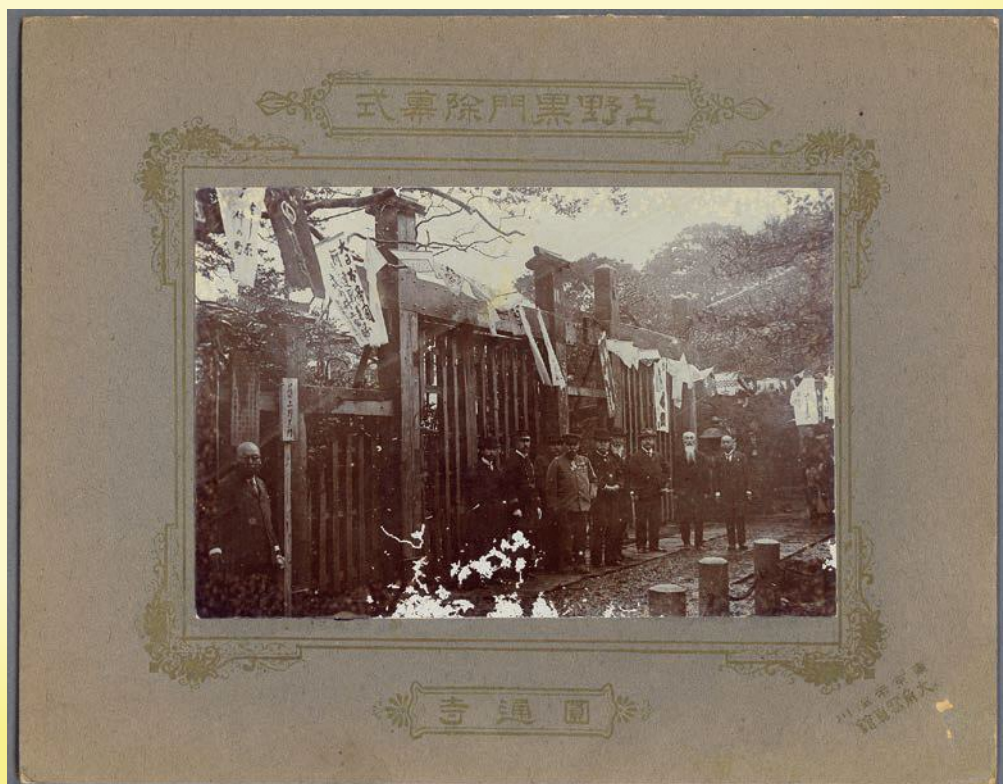
当館蔵

75回忌の記念に昭和17年（1942）撮影。藤田は安政大獄で処罰されたことでも知られる。

二〇二四年十月

通巻  
159号

史料館通信  
沼津市明治



上野黒門除幕式の写真

当館蔵

江原素六が残した資料。明治40年（1907）、円通寺に移築された際の撮影。右から二人目の白髭の人物は、箱館戦争を戦った遊撃隊・元岡崎藩主藩士の小柳津要人か。

## 彰義隊と沼津兵学校の人びと

慶応四年（一八六八）五月一日、上野に立て籠った彰義隊は大村益次郎が指揮する「官軍」に攻められ、わずか一日にして殲滅させられた。徳川家の駿河移封が決定されたのはそれから数日後のことだった。

旭隊を率い彰義隊とともに戦った吹田鯛六は、その後、榎本武揚艦隊に乗り組むが、台風に遭遇した乗船が沈没したため、抗戦継続を断念、翌年には沼津兵学校資業生に及第する。同じく、閑宿藩の佐幕派有志からなる万字隊（出隊）を率いて戦った同藩家老木村正右衛門は、敗戦後、静岡藩に逃げ込み山田潔（後に大夢）と改名し、沼津兵学校附属小学校の教員として採用されるに至った。他にも、沼津兵学校三等教授並鈴木重固（源五郎）の実弟加藤大五郎は、幕府陸軍でフランス式伝習を受けた士官生徒だったが、彰義隊の第二白隊兵隊組頭となっていた（重固子孫の伝承によれば、太っていた人で、戦うことなく芸者といっしょに逃げたという）。沼津兵学校資業生石橋絢彦の叔父藤田忠蔵（長鎮）は、幕府の鉄砲方与力だったが、上野での戦争当日、彰義隊の敗残兵と間違われ、「官軍」によって射殺されている。このように、親類・知人などを含めれば、彰義隊に関係を持つ人物は沼津兵学校の周辺にさらに大勢いたであろう。彰義隊の生き残りが、同志集団としてのまとも

りを維持したまま駿河に移住したのが、沼津勤番組十八番類だった。やがて彼らは、佐幕的心情を強く維持した者とそうでない者とに分裂し、藩の役職に就いた人物（斎藤金三郎・上野岩五郎）は佐幕強硬派によって「裏切者」「結束を乱した者」とみなされ、殺害されるといった事件が発生した。被害者の遺児たちは亡父の仇討ちを望み、結果、同志の首領だった大谷内龍五郎が事件の責任をとって、明治三年一月二〇日、転住先の遠州牧之原で切腹することになった。この一件は小説にも取り上げられるなどよく知られている。

この事件に関連し、後年江原素六は以下のように回想した。沼津兵学校を設立したことが佐幕強硬派の反感を買い、阿部潜とともに命を狙われた。二人が反感を持たれた理由には、藩の常備軍を解隊したためともされる（『急がば廻れ』）。襲撃計画があることを江原の部下後藤某に密告した者（佐幕強硬派内の内通者）がいたことから、暗殺を免れることができた。その後、何者かが明治二年元旦に後藤宅を訪れ「御年玉」を差し出したが、その風呂敷包みを開けてみたところ、密告者の生首が入っていたという。江原は、被害者（斎藤金三郎か上野岩太郎のことだろう）・加害者とも両方を知っていた。殺された者の息子は、剣術の稽古に励み、やがて父の仇討ちを申し込むが、「金谷の原」にいた申し込まれた側の人物（大谷内のことであろう）は、仇討ちが国法で禁止されたことを説き、今後は学問に励むように諭し、その代わりに自ら潔く自害して果てたのだという（江原素六「維新以来の教育を回顧す」『斯民』第五編第一号、

一九一〇年）。

右の江原の回想には不正確なところがある。斎藤・上野の殺害は明治二年一月二十七日のことだったので、生首の贈り物が二年元旦というのは誤りである。また、首級が届けられたのは後藤某宅ではなく、沼津勤番組の頭白戸隆盛（砂）宅の玄関であり、それも元日ではなく晦日だったとする文献もある（石橋絢彦「沼津兵学校沿革（八）」『同方会誌』48）。あるいは、被害者は二人なので、後藤と白戸にはそれぞれ別の首が届けられたのであろうか。はたまた首は、「沼津近番組長勤藤太平邸内」に二つ置かれた（『彰義隊戦史』、あるいは沼津郡政役所の玄関に放り出されてあったなど（『牧之原開拓史考』、諸説ある）。

また、駿東郡に移住した元彰義隊士については、権少参事・沼津郡政方の石川周二が悪事をはたらいた者たちを死刑にしたところ、他の隊士たちに命を狙われる破目になり、部下の村山宅（郡方改役村山五三郎のことだろう）には女の生首が投げ込まれたという（石川千代松「老科学者の手記」）。ただし、これは前述の事件と混同した誤伝かもしれない。

東京都荒川区の円通寺は、現在も弾痕が残る上野寛永寺の黒門が明治四〇年（一九〇七）に移設された、彰義隊と「官軍」との激戦を偲ばせる場所として知られる。また、彰義隊の墓をはじめ、戊辰戦争を旧幕府側として戦った人々の慰霊碑が林立することでも有名であり、すでに明治後期には毎年のように慰霊の催しが行われる場になっていた。以下に紹介するのは、同寺で開催されたあ



る年の慰霊祭についての新聞記事（『東京朝日新聞』明治四四年五月一六日）であり、江原素六や赤松則良（男爵）ら沼津兵学校関係者も参列したことがわかる。

●維新戦死者大法会 十四日午前十時より南千住元通新町円通寺に於て執行し雨天にも拘はらず参拝者五百余名に達し住職乙部弘道師は僧侶卅四名を従へて大施餓鬼を行ひ正午空也念仏あり戦役当時の記念品を陳列して一般の観覧に供し余興には薩摩琵琶、義太夫、手踊、長唄、落語等あり午後再び空也念仏ありて同四時頃散会せるが当日重なる参拝者は徳川公爵、同侯爵代理、榎本子、赤松男、沢造兵大監、斎藤陸軍少将、江原素六、細谷安太郎、高松凌雲、松野伍八（※町野五八）、本田進（※本多晋）、同盟会（※同方会）、碧血会、旧交会の人人なりき

（ ）内の※は筆者による訂正  
江原が残した資料の中には、黒門が円通寺に移築された際の除幕式の写真がある。沼津兵学校一等教授だった田辺太一は、明治四三年（一九一〇）に刊行された『彰義隊戦史』に序文を寄せている。身内・知人からの参戦者・戦死者の存在、静岡藩での内紛事件など、沼津兵学校関係者にとっても彰義隊の戦いは他人事ではなかったのである。

（樋口雄彦）



斎藤金三郎の墓

沼津市・靈山寺西光院墓地

斎藤の仮寓先は上徳倉村（清水町）だった。暗殺現場は上香貫村の路上で、謡を歌いながらやって来た斎藤を沼津勤番組十八番頼世話役の藤田寛三が襲い、同役の吉沢力松が加勢したという。



上野岩太郎の墓

清水町・堂庭区共同墓地

上野の仮寓先は上徳倉村の名主宅、殺害場所が堂庭村の田圃の中、暗殺者は藤田寛三だった。

## 江原素六とその周辺 72 江原素六と戊辰戦没者慰霊

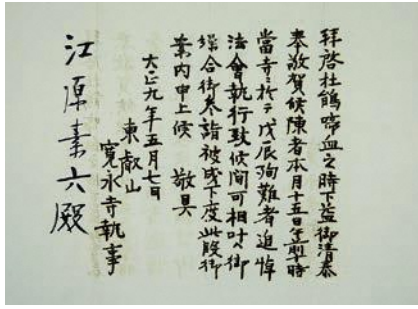
明治三五年（一九〇二）四月三日付の江原素六の日記に、戊辰戦争の戦死者の法事のため東京から沼津へ出向いたこと、年月の経過によって遺族も減り、参列者は十余名にとどまったこと、供された折詰料理は、この法事の一切を世話した陸軍中将古川宣誉の妻と娘たちが自ら整えたもので、配膳なども彼女たちが行ったことなどが記されている（村田勤『江原素六先生伝』（一九四〇年、新版、三省堂、二六一～二六二頁）。古川は撒兵隊に属し、戦場で敵に組み敷かれた江原を救ったことがある、かつての部下であった。残念ながら法事の会場名は記されていないが、明治三年（一八七〇）四月に旧幕臣たちによって愍忠碑が建立されていた本光寺であろうか。

右に紹介した日記の内容は、「報恩の情操」と題された江原の講演録にもそっくり記されているが（『江原素六先生伝』、一九二三年、三圭社、講演一三四頁）、それには古川が予備役の陸軍中将だったとあるほか、日記のほうの記述にも「古川中将」とあり、明治三九年（一九〇六）に少将から中将に進んだ彼の履歴と矛盾する。日記・講演録の両方に、「既に五十年になり」との文言があることから、明治三五年の日記であるとするのは誤りで、戊辰から五〇年後の大正八年（一九一九）以降のことではないかと考えられる。

江原による戊辰戦没者の慰霊・顕彰への取り組みは、沼津以外でも続けられていた。明治二十九年（一八九六）、京都伏見に建てられた戊辰東軍戦死者之碑に対しては、義捐金を出している（『戊辰東軍戦死者追悼碑建設落成報告書』。「官軍」「賊軍」の区別なく、幕末維新期の国事に斃れた人々を追悼するため、三十九年（一九〇六）に東京上野で開催された殉国志士弔慰会に参列したほか、四一年（一九〇八）には、同趣旨での殉国志士表彰請願を貴族院・衆議院に対し提出する賛同者に加わった（『史談速記録』第百八十号）。また同じ年、現千葉県市原市に遺族が建てた撒兵隊戦死者の墓碑のため、「徳川氏遺臣梶塚成志墓」との題字を揮毫している。

鳥羽・伏見の敗走を経験し、その後も下総で一隊の指揮官として戊辰戦争を戦った江原素六にとって、非業の死を遂げた戦友や部下たちの記憶は何十年経っても消し難いものだったに違いない。

（樋口雄彦）



東京上野・寛永寺で行われた  
戊辰殉難者追悼法会の案内状

当館蔵

大正9年（1920）5月7日

当時、江原素六は旧幕臣の親睦団体同方会の会長をつとめていた。



鳥羽・伏見戦争の旧幕府方戦死者

『戊辰戦記画卷』（明治24年刊、保勲会蔵版）所載 当館蔵

「官軍」の戦功を称えるための絵巻であるが、描いたのは沼津兵学校に在職した旧幕臣の画家松岡正盛（緑堂）。

## 夏休みイベント報告

### 平和を考える戦争史跡めぐり

7月28日（日）実施 参加人数12人

御成橋の被弾跡や海軍技研の地下工場跡、戦時疎開学園の建物などをバスで回りました。



### 学芸員体験講座

8月1日（木）参加者：高校生11人 中学生2人

博物館の概略や学芸員の仕事内容に関する講義、バックヤードや収蔵庫などの館内見学のほか、実際に掛軸・巻子の取扱い等の実習を行いました。



### 沼津市明治史料館通信

第159号

令和6年10月31日

編集・発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL 055-923-3335

FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社

## 博物館学芸員実習と館外展示報告

学芸員資格の取得を目指す大学生のための、実習生を受け入れています。今年も8月20日（火）～9月4日（水）の期間、3人の大学生が実習を行いました。さまざまな業務実習はもちろん、ぬましんストリートギャラリーでの館蔵資料展の企画から展示までを学生が行いました。

